

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 1階 りんご		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	令和2年2月7日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0172000952-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0172000952-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が安心、安全にホーム生活が営むことができるように1人1人の気持ちを大切に、ケアを行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム幸」は、静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。事業所前の通りにバス停留所があり交通の便も良い。広い裏庭には日々散歩や日光浴が楽しめるように花壇などを整備している。屋内は居間の窓から日差しが入り、明るく落ち着いた雰囲気となっている。開設後14年が経過する中で管理者は町内会議に参加したり、地域の除雪場所として敷地内を提供するなど、地域との関係づくりを積極的に行っている。町内会のお祭りに子供神輿を見学し、また保育園児や小学生など子供と交流する機会を継続して行っているが、今年は感染症防止のため住民との交流が難しい状況になっている。また昨年は行事として定期的な買い物、また家族との外食や趣味のカラオケが楽しめるよう本人の意向に沿う支援もあったが、今年は事業所内での運動量に力を入れたり、食事に季節の1品を添えて食べる楽しみを工夫している。外出が制限される中で受診の帰りに買い物をするなどして可能な限り対応している。看護師資格がある管理者の指導の下で体調の変化にも即対応している。申し送りの時間帯を有効に使い、身体拘束廃止に向けた利用者の安全な暮らしや介護計画見直しなど、思いに沿ったケアを話し合い実践している。職員は業務の中で学びを深めながら、利用者に関わり話しかけて優しく接している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が朗らかに過ごせるよう、日々理解に努力し何が必要なサービスか管理者と職員で相談している。	事業所内に理念を掲示し、また「入居のご案内」に地域社会の福祉サービスに役立つ事業所方針を記載し明確にしている。管理者は理念が共有できるように申し送り時に意味を説明し、職員は日々意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会議に管理者が参加し利用者が地域と繋がれるよう努力している。	町内会祭りの際に子供神輿を玄関前で見物したり、保育園児や小学生との交流する機会もある。今年は感染症の流行で主催側の中止もあり子供との交流場面はないが、冬には地域の除雪場所として敷地内を提供し町内会との関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議等で意見できれば認知症ケアについての情報を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、外部の専門家と意見を交換している。	昨年は運営推進会議を定期的に関催し、認知症への対応や事業所の取り組みで意見を交換している。今年は感染症対策のため書面で行い、利用者の状態、感染症対応、事故予防などの取り組み内容を報告書として関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から指導されたことはすぐ改善しサービス向上に努めている。	家族との対応で行き違いもあり、市の担当者と話し合い、サービス向上に努めている。市からは感染症などの情報をFAXで得ており、内容を職員にも伝えて対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため代替不可能な場合、身体拘束を行っているが、委員会を設置し定期的に拘束解除を検討している。	身体拘束廃止委員会を3か月間隔で開催し、内部研修も行い拘束をしないケアに取り組んでいる。今年は特に申し送り時に拘束廃止について学びを深めている。危険性からベッド柵を用いて拘束につながる事例もあるが、転倒防止の方法を検討しながら徐々に改善に向けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修にて虐待防止について学び、管理者と職員で虐待がないか注意している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やネット情報で学び利用者が活用できるか管理者や職員で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者や家族などに十分な説明を行い、理解頂いてから入居をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族らから意見や要望があれば主に管理者が運営に反映できるよう傾聴と説明を行っている。	家族の来訪時には主にケアについて話し合い、介護計画の意向も聞いている。今年は感染症対策で来訪時には玄関先で話し合ったり、電話で健康状態を伝えている。お便りを一時休止していたが、2か月間隔で作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者兼管理者が常に職員の意見具申に応じ他スタッフとも協議し反映させている。	職員間で意見を交換する場として、今年は特に申し送り時にケアの意見や提案を話し合い、対応を検討している。管理者は常に職員に話しかけ、気になる時は個別に思いを聞き、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は従業員の給与待遇、労働時間に配慮し、やりがいのある職場づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を行い、サービスの品質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会などで他の同業者と交流を行い介護ケアについて理解を深められるよう努力している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたり利用者の信頼を得られるよう傾聴を心がけ、本人に御安心頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等と管理者が面談し十分話し合い不安などの解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、紹介者からの情報をもとに今必要なサービスを介護計画に盛り込めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常の挨拶などからコミュニケーションを取り、利用者信頼関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況報告や写真送付、手紙を怒る手伝いなどを行い、家族と共にささいに行けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者は利用者居室にて談話頂き、遠方の方には手紙や電話で連絡できるよう支援している。	昨年は知人の来訪もあったが、現在は感染症対策で電話や手紙で交流が続けられるように配慮している。家族と外食や洋服などの買い物に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の能力に応じて、助け合えるよう関係良化に努めている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者や家族にも必要があれば相談フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の介護中の会話より利用者の思い、希望を傾聴しなるべくこころが救われるよう優しく接している。	利用者に接する中で会話や動作などから意向を聴き取るようにしている。介護計画の見直し時にも思いを汲み取っているが、本人の趣味、嗜好などが記録として活かされていない面も見られる。	課題分析概要シートに本人の趣味、嗜好などの項目を職員間で検討したいとのことなので、変化なども追記し現在の思いを記録で共有できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の資料や本人、家族からの情報を集めこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が日々楽しく暮らせるよう記録を残し、スタッフ間の情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心にヘルパー、本人、家族、医師など官憲者の意見を参考に介護計画を作成している。	介護計画は利用者の状態に応じて3か月～6か月の間隔で見直すことにしている。毎月、目標に沿って支援内容の評価を行い、計画作成担当者が中心に職員の意見を収集してモニタリング表を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員分の個別の記録を残し、スタッフ間での意見交換を行い、ケアの実践と見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の差し入れをオヤツとして本人の希望通りにお出しするなど可能な限りは利用者のニーズに対応を試みている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日用品を地域の業者に依頼したり、近くのケーキ店を利用したり、植物園を散策したりした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診したり、往診をお願いし、医師の指示を守り、医療支援に努めている。	かかりつけ医を継続し、受診には家族が同行しているが状態に応じて事業所でも対応している。身体的な重度化で受診に負担がかかる場合は家族と話し合い、訪問診療に変更することもある。	

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、毎日ヘルパーに必要なケアを指示している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、必要なものはすぐ用意し届、本人の家族にも連絡を行い病院と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約説明時より重度化や主松木への対応について本人、家族など関係者と話し合いを行っている。	利用開始時に重度化した対応や看取り指針について説明し、食事などの飲み込みができない状態が続く時は対応が難しいことも説明し了解を得ている。重度化しても可能な限り対応し、最終的には入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の管理者が内部研修やインシデント発生時などの機会にヘルパーへ指導を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隔月で消防訓練を行い、毎朝災害時取るべき行動を読み上げている。	昨年は消防署協力の下で年2回の訓練を実施し、自主的な訓練も行っている。今年は火災想定を中心に3か月間隔で事業所内で訓練を行い、申し送り時にも災害時の対応を確認している。冬季も含めた災害備蓄品を備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重しやさしい言葉遣いを行うよう指導している。	職員採用時に言葉使いや対応、ケアの仕方と接遇マナーを説明し、勤務についている。職員は高齢者を敬う気持ちで尊厳を重視して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問題行動や危険でなければ本人の意向を尊重し見守りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など所作が遅くても、なるべく本人のペースを大切に介助し、より自立されている方はその人らしさを尊重し見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスをしてくれる地元の理容師が隔月で散髪し、日曜は整容を介助している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、下膳の一部は利用者が行っている。食事は自力をすすめているが、無理なら介助している。	食材は業者から配達されるが、季節の行事と誕生日は食べたい献立を聞いて提供している。いつもの献立の他、季節の旬の食材を取り入れ食事を楽しくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設向け食材キットを業者より購入し、計画に沿って食事量、水⑥分量をお出して記録を残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて声掛け、誘導、介助を毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態により自立支援を行っているが、失敗の内容見守りや介助を行っている。	処置板に排泄などを記録し、時間を見ながら適切にトイレへ誘導している。極力失敗を少なくし、便座に座って排泄ができるよう利用者ごとに支援方法を工夫して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を残し、下剤で調整しているが、毎日ヨーグルト摂取や体操を行って頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴スケジュール内で本人の希望に合わせ曜日、時間を変更し入浴頂いている。	1人週2度の入浴時間には、入浴剤や職員との会話で楽しい時間になるよう支援をしている。湯船を跨げない場合もシャワー浴で清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況により居室で休眠頂き、日々の安眠が守られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状、薬の資料をファイルなどにまとめ、与薬前には複数人で確認し、症状の変化があれば管理者に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話を通じて本人のやりたい事などを伺っている。また、レクリエーションや飾りつけで季節感を楽しくするよう努めている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月～10月は寒くなければ毎日裏庭を散歩できるよう支援している。また、家族等の支援で外出される事もある。	感染症予防対策として外出の制限があるが、個別に受診後や家族の対応で買い物や外食など、屋外に出かけている。廊下の散歩や裏庭での日光浴と散歩も日課になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、本人の能力に応じ、必要ならお金を渡し買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話、手紙で連絡できるよう常に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルーム、廊下、トイレ、浴室、脱衣所などの清掃は毎日ヘルパーが行っている。安全や防災に配慮した上でデイルームの飾りつけも努めている。	加湿器や空気清浄機を使い空調管理をしており、気になる音や光など感じられない。居間ではソファなど思い思いの場所で自由に過ごしている。習字や節分、ひな祭りなど、楽しい行事を共有空間のリビングで行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や体操の時以外は自由に自分の好きな場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で本人や家族などの希望に沿った居室になるよう支援している。	備え付けのローチェスト、カーテン、照明器具、温湿度計以外に自分好みのものを持ち込み、好きなように配置して暮らしている。自分だけの落ち着いた安らげる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わず、ヘルパーが見守り易いよう一本の廊下にすべての居室がつながっており、トイレも一か所にまとまっている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸 2階 みかん		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が安心、安全にホーム生活が営むことができるように1人1人の気持ちを大切に、ケアを行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0172000952-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0172000952-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所の見える所に貼り出し、また職員が読み上げることで常に理念を意識して実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の役員会に出席をして、交流を図っている。冬は排雪場所として敷地を提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席された方から身近な認知症に関する話を聞き、グループホームとしての意見を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の状況や事故などの情報を伝え、意見を聞くようにしてサービスに取り入れるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に法律、制度面についての疑問点があれば問い合わせをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や研修を行い、禁止行為の確認をしている。やむを得ず身体拘束を行う場合には必要な手続きの確認を行い、記録に残している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながらないように、普段の言葉遣いなどから意識してケアを行うように心がけている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修の機会を活用して制度の理解ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に運営規程、重要事項説明書、契約書の内容を基本に丁寧に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外出、外泊、受診等は特に家族の希望が多く、できる限り要望に応じている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日8:30~9:00に申し送りを行い、利用者の介護、運営に関する意見が有れば話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会あるごとに個々の職員に健康、勤務状況及び労働時間、職場環境などの改善について話しかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々介護している中で力量不足の職員に対し、いかに理解して努力してくれるかを他の職員の力を借りてトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者と交流を持ち、運営の疑問点を聞いたりしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用初期は不安な点も多いので、話しかけを多くして不安感の解消や要望を聞く様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学、契約の説明の時など入居前から家族の思いを聞いて説明をすることで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や不安な点を話し合う事で、利用者本人に対して一番適したサービスを提供できるように考え、介護計画に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯など可能な範囲で手伝ってもらったり、会話をすることで暮らしを共にするという意識を持つように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時に利用者のホームでの様子を伝え、問題があれば一緒に解決法を考える様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた美容室へ行ける用意支援している。知人が面会に来られた際にはまた来てもらえるように話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲のよし悪し、関係を把握し、座席を調整し孤立することなく円満に過ごせるようにしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も機会があれば現在の様子を聞き、支援の必要がないかを聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長く入居されている方であっても、その都度本人の意向を聞き、介護においては介護計画に取り入れるなどしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人や家族から生活歴について聞き、紹介のあった病院や介護支援事業所などからも情報提供してもらい、これまでの経緯などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルサイン測定や食事摂取量などを記録して心身状態や過ごし方などの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の送り、毎月のモニタリング、介護計画の見直しなど、スタッフで話し合いを行いまた、面会の時などに家族の意見を確認して、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアを行い、その内容を記録している。職員間で情報を共有し計画の見直しについでしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や課長の希望を聞き、柔軟なサービス・支援を行えるように話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の方と話をする機会に協力して頂きたいことなどを話している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診している病院を聞き、変わらず受診できるように支援している。入居後に新たに受診をする際には希望があれば聞くようにしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者と兼務の正看護師がおり、体調の変化などがあれば、すぐに相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時にはホーム内での様子を情報として伝え、また、入院中には現在の様子や退院の見通しについてきくようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの看取りの指針について説明をして、必要に応じて話し合いをする事でその方針を共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、看護師への連絡、消防への連絡などの手順を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練を3ヶ月に1回、消防署立ち合いの訓練を年2回行い、非常通報装置で地域の方にも連絡がいくようにしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守ることを大切にして、普段の言葉づかいから注意することをはなしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で利用者の思いや希望を聞き、その希望に沿えるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などは原則として決めているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者それぞれの身だしなみの希望を聞いて、実現できるように支援をしている。美容室への送迎などを行っている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて形などを工夫している。時々には希望された食事を出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成を業者に発注する事で栄養バランスや総カロリー量に配慮した食事を提供している。また、水分量も記録して不足しない様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアを行える人には見守りや声掛けをして促している。自分で出来ない人には誘導や介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を失敗される方にはそのパターンを調べてトイレ誘導をするなどしてトイレで排泄することを目指した支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量をチェックしたりヨーグルトを食べてもらうなどしているが、それでも便秘がちな方は主治医と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の入浴する曜日を決めているが、希望された場合にはその希望に沿えるように柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が希望された場合に居室休息してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録のファイルに薬局からの薬の説明を綴じその薬効が把握できるようにしている。服薬の際に複数回のチェックをすることで誤薬がないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの好むことを把握して、一緒にテレビを見たり、ゲームをするなどしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季には天気が良ければ庭への散歩を行っている。買い物などのレクを行って定期的に外出できるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム菜緒ではお金を置かない様にしているが、買い物レクの時などに支払いを自分でしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話を取り次いだり、届いた手紙を渡すなどしており、手紙を出す事を希望した場合は支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に温度計を置き、温度・湿度のチェックをしている。デイルームや居室でのテレビなどの音もうるさくならないようにするなど居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を把握してデイルームでの席順を工夫している。一人になりたい時は居室を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団を持ってきて頂いたり、仏壇や家具などなじみのものを持ってきて居心地よく過ごせるように話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の動線には手すりを設置しており、またバリアフリーの造りになっており、廊下も事務所から死角なく見通せるなど安全に配慮した造りになっている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム幸

作成日：令和 2年 12月 5日

市町村受理日：令和 2年 12月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援において新型コロナウイルス感染症が発生したことにより感染症対策が重要な課題になっている。	①外泊の日数は出来る限り少なくする。 ②家族の買い物は長時間しない。	①外泊時、体がだるい、熱が37.5℃以上、味がわからない、臭いが分からない、喉が痛い等の症状が発生したらホームに連絡する。 ②密集・密閉・密接に注意するようお願いする。 外泊時①密集→混雑するところは避ける。 ②密閉→窓や戸を少し開ける。 ③密接→大きな声で話さない。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。